

「農楽部 畑っこ」の活動について

農楽部 畑っこ
玉田真友美

1. 団体説明

環境人間学部のキャンパス内にある畑で週に一度、水曜日に活動をしている。また、在来種保存会のイベントの手伝いなどもしている。

畑っこは、「農を楽しむ」をコンセプトに在来種を保護していくことを目的として、地域の方々と共に野菜の種や苗を植え・育てることで種を増やす・守る活動を行っている。また、体に良い野菜を作るため、すべての野菜を無農薬にこだわって育てている。

2. 2019年度の活動

普段の活動としては、野菜の種まき・苗植えや、野菜を植える場所である畝作り、収穫などを主に行っている。収穫した野菜を使って料理したり、その場で食べたりすることもある。また、野菜にあった調理法を学びながら料理し、地域の人に振る舞うイベントを開催している。

表 1 2019年度の活動

5月：春の豆パーティー (豆ご飯などの豆を使った料理を堪能)
8月：かんぴょうのイベント開催 (夕顔を削って干す、かんぴょう作りやかんぴょうを使った巻き寿司作り)
12月：初めて作ったご飯で芋煮会 (畑で取れた芋を使った芋煮や今年初めて挑戦したご飯を堪能)

印象に残った活動は、かんぴょうのイベントである。かんぴょうは原料である夕顔の果実（ふくべ）を育て、十分な大きさになると収穫し、紐状に剥いたものを干すことでかんぴょうが出来る。

今年度は前年と同じく苗を植え、育てて自分たちの果実をかんぴょうにした。今年度は果実の育ちが悪く、イベントの当日までに間に合うかという問題が起きたが、無事大きく成長させることができ、達成感を感じた。また、かんぴょうを干した状態のもの以外に生のままサラダや酢の物にしたり、揚げて天ぷらにしたりと様々な調理法でかんぴょうを頂くことができた。普段では滅多に口にするのできかない、生の夕顔の果実を食べる貴重な経験ができた。

野菜を育てる上で水は欠かせないものである。今年度は天候が不安定であり、生育不足に悩んだ。

野菜を育てることは自然を相手にするというものである。自然は、人間ではコントロールすることができないため、育てるのに苦労した。しかし、苦労して育てたことで立派な野菜たちができると喜びに変わる。また、食べたときによりいっそう美味しく感じられる。自分で育て、調理することで、普段よりも美味しく感じられる経験はここでしか体験できないものだと思う。



図 1 夕顔の果実を剥いている様子



図 2 剥いたものをキャンパス内で干している様子

3. 活動を通して学んでいること

スーパーで売られている野菜の成長過程や花の色を知っている人は果たして何人いるのだろうか。私は畑っこに入るまでこのようなことは考えたこともなく、漠然と畑で育てられているということ

だけを理解しており、実際どれだけの手間暇がかけられているかを知らなかった。この報告集を読んでいるあなたも同じではないだろうか。

畑っこで野菜を育てていく中で、農具の使い方や畑作業には意外と体力が必要なことなど座学では体験できないことを、体を動かしながら学ぶことができる。また、野菜ソムリエの方から美味しく調理するための方法や普段は食べない野菜の葉や茎などの食べ方も知ることができる。私が美味しかったと思うものの1つに、柿の皮のチップスがある。普段は捨てる皮だが、無農薬で育てているため食べることができ、少しの油でカリッと揚げることで作れる。果実の味とはまた違った、ほんのりとした甘さがありとても美味しかった。

野菜を育てることは研究であり、挑戦でもある。どう育てれば大きく育つのか、美味しく育つのかたくさんの方の方法を考え、試行錯誤する。そして、新しい種類の野菜を育てることに挑戦する。今年度は敷地内に水田を作って自ら田植えを行い、稲を育てた。脱穀作業も昔の装置を使って行った。一連の作業は、田植えをしたことがなかった私にとって魅力的で、とても良い経験となった。

自分たちで一から育て、収穫した野菜を食べることで「食べることの大切さ」を身にしみて感じることができる。近年問題となっている「食の安全性」に対して、地産地消や無農薬栽培についてや食材の命を頂いていることを、これから食べる際にもう一度考えて欲しい。

4. 今後の展望

現在、畑っこの部員数はだんだんと少なくなっている。キャンパス内に畑があることをまだまだ多くの人に知ってもらえていないからだと思う。そのため、畑に来てもらう機会を設け、気軽に農に触れてもらおうと考えている。

今後の活動として、まず畑っこの存在を知ってもらうために、農作業の体験ができる企画を考えている。私は、自分が普段口にしていない野菜を農作業を通して一人でも多くの人に身近に感じてもらい、収穫の楽しさや自分の育てた野菜のおいしさを感じてもらいたいと思っている。

畑っこという団体の活動を通じて食べることの大切さ・楽しさや野菜の命をいただいていることを感じられる団体になりたい。また、その気持ちを新しく入った部員たち含め、畑っこ全体で分かち合いたいと思う。また、学生や地域の方々に広めていけたらと考えている。



図3 畑で収穫した夏野菜



図4 畑で収穫した冬野菜



図5 収穫の様子



図6 初めて稲作に挑戦し、完成したご飯